

「誰のための再開発か」

板橋で28日 レイバーフェスタ

映画も企画も

働く者の文化イベント「レイバーフェスタ2025」文化で時代に立ち向かおう」が



「再開発は誰のためのもの？」のディスカッションには、板橋区の再開発に反対する住民らも参加する＝レイバーネット日本提供

28日午前11時から板橋区立グリーンホール（板橋区栄町）で開かれる。毎回多様な社会問題をとり上げている。今年も映像や音楽、川柳などで労働者の文化を表現する。

フェスは今年で24回目。市民メディアとして原発問題や差別、戦争など社会問題や労働問題などについて情報を発信している「レイバーネット日本」を中心に実行委員会を作り開いてきた。

今回の目玉企画は、都内の再開発問題。「その再開発は誰のためのもの？」声を上げる市民が手を結ぶ」と題して、映像と市民のデ

モーションで再開発に迫る。討論には、タワーマンシジョン建設計画が相次ぐ板橋区の住民、北区・赤羽の住民らが参加する。板橋区のハッピーロード大山や赤羽の通称「せんべろ」と呼ばれる飲食店街の再開発にまつわる市民運動の映像を紹介しながら、地域や文化、暮らしの側面から問題を提起する。実行委は「都内各地で進む再開発は、何を作り、街の何を破壊するのか、共に考える場になりたい」と話す。

他には、日本で初公開される工場閉鎖に屋上占拠で闘った韓国の労働争議をテーマにしたドキュメンタリー「高空籠城600日」の上映や音楽で世界各

地とつながってきた「生田まんじ&SOS」のライブ演奏、反戦講談などが行われる。また、社会や仕事への思いを映像で表現した公募の「3分ビデオ」の上映、川柳の発表など恒例の企画も用意されている。

フェスは午前11時～午後6時（出入り自由）。参加費は当日1800円（前売り1500円）、失業者・障害者1000円、学生・20歳以下無料。問い合わせは実行委員会

03・35330・805

78)。【東海林智】